

学校 教育 目標	「豊かにつながり たくましく とともに輝く子」 (知) 主体的に取り組み、関わりの中で自分の考えを深め、豊かに表現する力を育てます。 (徳) 自他のよさを見つけ、認め合い、夢や目標をもって生きる力を育てます。 (体) 心身ともに健康で、楽しく安心な生活を、実践していくとす力を育てます。 (公) まちとの関わりを大切にし、地域や社会の中でともに支え合う力を育てます。 (開) 多様な価値観や個性を尊重し、広い視野をもって新しい社会を創造していくことができる子を育てます。			
	学校 概要	創立 59 周年 校長 小山 進治 副校長 平野 千恵 児童生徒数: 448 人	2 学期制 一般学級: 16 個別支援学級: 4	主な関係校: 谷本中学校、谷本小学校、藤が丘小学校、さつきが丘小学校

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	谷本中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
〈自らを育て創る能力〉 〈持続可能な社会の創造に貢献する力〉	谷本中学校 藤が丘小学校 さつきが丘小学校 谷本小学校	「笑顔であいさつ ～自分で認め、相手を認め～」 ○合同授業研究会を開催し、授業づくりを推進します。 ○児童生徒交流会を実施し、小から中への円滑な接続を進めます。 ○小学校の授業との連携を通して、児童理解を進めます。

中期 取組 目標	<p>社会に開かれた教育課程の創造 ～変化に対応したカリキュラム・マネジメントの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○子どもの主体的な学びを実現するために、自ら問題を見出し、協働して解決を図る学習過程を重視した教職員の指導力向上を目指します。 ○豊かな心を一層育むために、表現活動や交流活動を重視し、互いに認め合う心や自尊感情を高め、自信をもてるようにします。 ○児童理解に基づいた特別支援教育及び児童指導を全教職員の共通理解のもとに推進し、だれもが安心して学校生活や学習ができるようにします。 ○学校運営協議会、つつじが丘小学校サポーター組織、PTA組織の連携・協力のもと、教育活動を充実させます。 ○新校舎建替に向けて、児童のさらによりよい教育活動を保障する学習環境となるよう関係機関と検討を重ねていきます。(令和8年度竣工予定)
----------------	--

重点取組分野		具体的取組
知	生きて働く知	①学習展開の工夫を行い、子どもの学ぶ意欲、関心を高める。②各教科・領域において、言語活動の充実を図り、活発な意見共有を通して、各教科の資質・能力を育成するとともに、コミュニケーション能力を高める。③ICTを効果的に活用し、各教科の資質・能力と、本校の教育課程全体で育成を目指す資質・能力とを相互に関連付けながら自らの力を高められるようにする。
担当	研究創造部	
徳	豊かな心	①道徳教育と人権教育を充実させ、規範意識を高め、よりよく生きようとする心を育てる。②たてわりや児童会活動等を通して、異学年での交流を深める。③授業の中で自尊感情を育てる。④情操教育を通して、感性豊かな心を育てる。⑤地域の一員であることを自覚し、地域とのつながりを大切にしようとする態度を積極的な地域行事参加を促しながら育てる。
担当	指導育成部	
体	健やかな体	①昨年度に引き続き給食週間を設定し、栄養職員による食教育も全学年で行うことで、食に関する興味関心の向上や、よりよく生きようとする態度を身に付けさせる。②保健指導や児童保健委員会の取り組みを充実させることに加え、性に関する指導や体育科保健領域をカリキュラムに位置付け、保健教育の機会拡充に取り組む。③児童運動・集会委員会では引き続きたてわり活動での役割を担うことで、児童を主体とした自ら進んで運動に慣れ親しむ態度の育成を推進する。
担当	企画運営部	
公 開	人材育成の推進	①地域社会とのつながりについて学ぶ機会を通して、地域や社会のために自分ができることを考え、他者と協働しながら課題解決を図ることができる力を育む。②自分の内面と向き合い、自他の違いを受け止めながら、価値観や背景の異なる相手ともコミュニケーションを図ることを大切に、その中で、共感的に理解したり、合意を形成したりするなど、共に生きていく力を育む。
担当	研究創造部	
	いじめへの対応	①YPアンケートをもとに組織で支援検討を行い、授業づくりや集団づくりを進める。②「心のポスト」や「先生あのねタイム」「生活アンケート」等を活用し、子どもの実態を細かく把握し、いじめの早期発見を図る。③法に基づいた「いじめ」の定義を全職員で共通理解し、組織的に対応すると共に、保護者とも連携して子どもの安心できる環境づくりを行う。④「いじめ防止対策委員会」を軸として、いじめを積極的に認知し、組織で見守る体制を整える。
担当	指導育成部	
	組織運営(働き方)	①ミドルリーダーが中心となってメンターチームの育成を図り、必要感のある研修を継続し、若手教員の育成につなげる。②共有サーバーなどの整備を行ったり、教材等の保管について整理したりすることで、教材研究の効率化を図る。③校内業務の精選を行い、スリム化やペーパーレス化を図り、働きやすい環境を作る。④定時退勤日の確実な設定と実施をする。
担当	企画運営部	
	初任研・児童指導	①日頃から学年や児童支援専任と連携して、組織で情報を共有し、月一回の児童指導委員会や職員会議において、全職員で児童についての共通理解を図る。②つつじスタンダードを常に教職員と保護者とで共有し、児童の規範意識を向上させていく。③朝会の場を活用して「生活目標」を周知するとともに、学級で具体的な行動目標を設定する。④校内初任研、メンターチームでの研修、研鑽、学年内でのフォローアップを基に、初任者がモデルとなる指導方法や内容を身に付けられるようにする。
担当	指導育成部	
	特別支援教育	①個別の教育支援計画・個別の指導計画を活用し、個々のニーズに対応できるようにすると共に、保護者と目標を共有し、連携していく。②SCやSSW、外部機関との連携を通して、ケース会議を積極的に開催し、個々に応じた適切な支援をする。③特別支援教室(おひさまルーム)の利用を通して、学習、生活の場面で達成感を味わい、自己肯定感を高めることができるようにする。
担当	指導育成部	
	保護者・地域連携推進	①地域学校協働活動推進委員との連携により、サポーター・外部人材の活用や教育環境整備等を進める。②地域交流イベントを地域と共催で行い、子どもたちが他世代との交流をとおり、地域への愛着を深められるようにする。③学校運営協議会を開催し、「まち」とともに歩む学校づくりを進める。
担当	企画運営部	
	社会情動的コンピテン シーの育成	①横浜スタジアナビ、ロイノート等を活用し、学びの履歴を残し、児童自身が何をどのように学んだのかをメタ認知できるようにする。②人とのかかわりを通して、自他の違いを受け止めながら、共感的に理解したり、合意形成をしたりして、共に生きていく力を育む。③児童が主体となって学習する場面を積極的に設け、よい行動を価値付けることで自己有用感を高められるようにする。
担当	研究創造部	